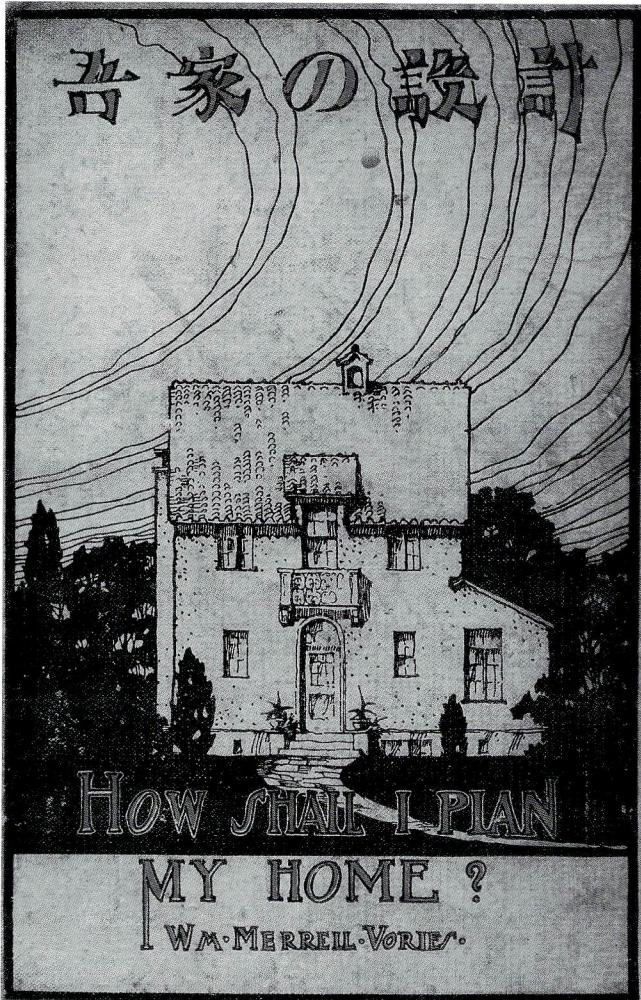


ウィリアム・メレル・ヴォーリス展

ART

開催中

京都・滋賀に西洋建築をもたらして100年。
ヴォーリスに学ぶ「建築って、心だ」。



ウィリアム・メレル・ヴォーリス著「吾家の設計」
文化生活社 1923年

週末の住宅建築番組「渡辺篤史の建もの探訪」を観ると、「いやあ、これ大丈夫？」と心配になる物件の多いこと。住宅街で浮きまくるKYオシャレ物件、住んでる人と家の波長が違う、見るからに無理な物件…。「建築って、見た目だけのモンじゃないでしょー」と、つい突っ込んでしまう。

ウィリアム・メレル・ヴォーリスは、1905年に基督教の布教のために来日。近江八幡に英語教師として赴任した。教師の職を退いてからは建築家として活躍し、大正～昭和にかけて1500軒にもものぼる物件を手がけている。その作品は「世界の中心」とまで呼び、愛した近江八幡にいまでも数多く残るほか、京都では北白川の駒井家住宅、四条大橋の東華菜館など、永きに渡って風景の一部として愛されている。

遠い異国にやってきて、戦時中も帰国せず日本に骨を埋めたヴォーリス。布教という出発点がそうさせるのか、ヴォーリスの西洋建築には押しつけがましさがなく、土地の風景に溶け込む美しさがある。ヴォーリスが建築を通して描こうとしたのは、理想の生活の伝道。猫も杓子もがカッコだけで建築を語り、狭い土地にありっただけデザインをぶち込むプチ・建築バブルの中で、一体建物にとって何が理想なのか、ちょっと考える時間を持ってみては？

(沢田眉香子)



ヴォーリス記念館 近江八幡市・滋賀県指定有形文化財

- 「ウィリアム・メレル・ヴォーリス展」
- ～2008.3.30
- 滋賀県立近代美術館
- 077-543-2111
- 一般900円
- 月曜休館

~京女・真摯のactive life~

月刊 芸妓自身!!

「都をどりのお稽古!!」の巻

3月は「桃の節句」です。「お雛さんを飾らなければ!!」と思っているのですが、2月の末からは私たちの春のメインイベント「都をどり」のお稽古が始まります。バタバタして飾るのを忘れがち…。「ウチは旧暦です!」と言い放ち、4月3日をリミットにします(笑)。

さて、明治5年から始まったこの「都をどり」、今年の歌題は「都今源氏面影(みやこはいまげんじのおもかげ)」。今年は源氏物語の一千年紀です! 3月からは「立ち方(舞を舞う人)」の本格的なお稽古が始まります。こちらはハードスケジュールで大勢でのお稽古。朝から始まりますとお昼の一旦昼食休憩の後、キリの良いとされるところまでズンズン進みます。私はこの期間のお稽古スピードの早さに苦しみます。

早い人、遅い人、覚える早さは人それぞれで、早い人に手順を聞いて何度も何度もお稽古をして頭に詰め込みます。私は何度も

動いて体にしみ込ませないといけないうちでして、メモリがいっぱいになったゆ〜つくりのPC状態なのです(涙)

何年か前から感じている忙しさは、時代のせいなのかこっちの年がってしまったのか、覚えるペースも必死で、お稽古が終われば急いで用意をしてお座敷にGO!!

あまりにも頭も体もタイヘンなので、毎年思う事は「来年こそはお嫁に行つて寿退社よ!!」(お雛さん片付けるよー)。そんなこんな気持ちと葛藤しつつも、「本番には間に合ってるからエライ!!」と自分で誉めたりします(号泣)

幕が開けると「わあ〜、綺麗やなあ」と憧れていた頃の私が甦ります。

是非、皆さんにも祇園の伝統「都をどり」に見てもらえれば嬉しおすう〜♪



MAKOTO率いる京都発信エンターテインメントチームHP
<http://www.chimalabel.com>

只今CD発売中 featuring MAKOTO
「M.O.N」first mini Album “UNKNOWN/安穩”

真摯の出番は<http://chimalabel.com> トップページで!